



菊地 時子
(日本共産党)

妊婦の無料健診の 拡充を

質問 子供を産み育てることにあまりにもお金がかかり、健診に行くことも躊躇するとの声がある。無料の受診票を使い終わり、お金がないから残りの健診は我慢して出産を迎えるといったことのないように、妊婦の無料健診の拡充ができないか。

答弁 市では、妊娠初期段階から出産前までに県の補助事業も含め一般健診7回、感染症検査1回、超音波検査1回、歯科健診1回の計10回を全額助成している。最低限必要な一般健診の基準は5回であるが、さらに2回の公費による負担とし、安心で安全な出産を迎えるための負担の軽減に努めている。また、母子保健事業も妊婦交流や栄養指導などを実施し、出産に対する不安の解消につながっている。財政状況も厳しい中、今後も現状の健診回数を維持し、母子保健事業も活用しながら妊婦の健康維持と胎児の健やかな発育に向けた環境づくりを推進していきたい。

ごみ処理の 高齢者世帯への対応

質問 高齢者世帯が多くなってきた中で、ごみ分別がわかりづらい、ごみの収集日を忘れる等、ごみの分別が複雑になればなるほどついていけない傾向にある。高齢者世帯がごみ処理をする上で困っていることについてのどのような対応を考えているか。

答弁 平成20年4月には当市のごみの分別品目は9品目14分別へとさらに細分化されることになる。市では10月以降開始する説明会において、実物を用いた高齢者にもわかりやすい説明に努めるほか、広報にシリーズ掲載するとともに、写真やイラストを盛り込んだ冊子、ポスターを全戸配布して周知徹底を図る。高齢者世帯への対応として、地域のかかり合いの中でごみ分別の適正化が図られるよう、廃棄物減量等推進員を配置したいと考えており、高齢者世帯への声かけ、分別サポートを念頭に、推進員の研修機会を設けるなどして体制を整えていきたい。

菊地議員のその他の質問事項

- 公立保育所の今後のあり方
- 子供たちへのごみ教育
- 介護保険料引き下げと利用料軽減



原田 悦子
(よねしろ会)

市有地（普通財産） の貸与・譲渡の状況

質問 合併に伴い、市有地が増加している。財源確保を図るため、積極的に売却処分すべき。貸与・譲渡処分の状況について伺う。

答弁 能代地域の一般貸し付けは28件で内訳は貸付期間20年未満が1件、30年未満が3件、残り24件は30年以上であり、二ツ井地域の一般貸し付けは45件で、10年未満が8件、20年未満が7件、30年未満が7件、残り23件は30年以上となっている。市としては早期に売り払い処分したいと考え、平成18年度に能代市財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例の一部を改正して、長期にわたり貸し付けている住居用宅地については期間に応じて減額譲渡することとしている。なお、貸付料は固定資産税評価額の4%であり、固定資産税は課税標準額の1・4%なので、両者間で特に均衡を欠くことはないと考えている。

能代産業廃棄物 処理センター

質問 液状物入りドラム缶の不法埋立の比ではないが、市の許可以前にシートのない安定型処分場に管理型処分すべき一般廃棄物・家屋解体材を埋立処分するのは、明らかに不適正処理と考える。一般廃棄物処理業の許可を与える市の考え方はどうか。

答弁 ナンバー1処分場が個人から設置届け出された昭和55年当時の「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、家屋の解体により発生した建設廃材は一般廃棄物として扱われるべきものとなっている。市が、当該個人に一般廃棄物処分業の許可を与えた時期は昭和57年11月であり、それ以前の家屋解体材の埋め立ては、当時の法律では適正ではないと考えられる。なお、その後の法律の改正により、現在は家屋解体材のうち、建設業に係るもので工作物の新築、改築または除去に伴って生じたものについては、産業廃棄物となっている。

原田議員のその他の質問事項

- 指定管理者制度
- 二ツ井町の井戸水汚染原因の調査状況
- 二ツ井町大沢ごみ処理場の対策